

高校生白熱！チャンプ本決定！

本を通して人を知る・人を通して本を知る

鹿児島県高校生ビブリオバトル大会開催

鹿児島県の調査によると、鹿児島県の高
校生の三人に一人は、一月の間に一冊も本
を読んでいないという結果が出ています。

そのため、各高校では、朝読書の時間を設
けたり、読書イベントを行ったりなど、読
書推進のため、様々な活動を行っています。

また、鹿児島県教育委員会でも、毎年、

「鹿児島県高校生ビブリオバトル大会」を
実施しています。「ビブリオバトル」とは、
発表者が多くの人に勧めたい本の魅力につ
いて、五分間で紹介し、それぞれの発表後
に観戦者と意見交換を二分間行うものです
べての発表が終了した後、

どの本が一番読みたくな
ったかを観戦者の多数決
で決定し、チャンプ本を
決めるものです。大会で
は、高校生の本に対する
熱い想いを間近に感じる
ことができます。



令和四年度のチャンプ本に輝いたのは、出水市立
出水商業高等学校二年の松下未来さんの紹介した
『正欲』（朝井リョウ著 新潮社）でした。
ビブリオバトルの取組は、小学生、中学生、大人
にも広がっています。

『大造じいさんとガン』でおなじみ

あの椋鳩十氏が提唱

1日20分読書運動

昭和三十五年、
県立図書館長の久
保田彦穂氏（椋鳩
十氏）が、「母と
子の二十分間読書
運動」を提唱し、
親子読書運動が始
まりました。

「親子読書運動」
は、親と子の、ある
いは子ども同士の
あたたかな交流を



【生前の椋鳩十氏】
（写真提供・椋鳩十文学記念館）

通して、豊かな読書の
世界を子どもたちの中
に広げていくことを目
指してきました。

日本中で行われてい
る親子読書運動は、鹿
児島県から広がって
いったのです。
鹿児島県では、現在
でも「一日二十分読書
運動」という形で継承し
て取り組んでいます。

どんな本を読んだらいいの？

読む本に迷ったら

鹿児島県立図書館では、どの
ような本を読んだらいいの
か手助けをするために、ブ
ックリストを作成しているの
を知っていますか。幼児から
中学生までを対象に、毎年「こ
どもの本」児童モデルリストを
作成しています。これは、子
どもの発達段階に応じて、
県立図書館職員が毎年新し
く購入した本からリストを
作成しているものです。また、
他にも子どもが大人になる
までに読んでもらいたい本
を「にじいろの本」として紹
介しています。それだけでなく、



「鹿児島県の高校生が薦める本」として、県内の高校生
が、同年代や中学生に薦めたい本のリストもあります。
これらのブックリストを、ぜひ、活用してみませんか。
また、「宝本」という言葉を知っていますか。県
立図書館では、人と人との絆を深め、感動を味わい、
自分を見つめるような大切な一冊を「宝本（たから
ぼん）」と呼んでいます。宝本は、「ふれあいながら
読み、共に過ごす時間をつくること」「楽しみなが
ら読み、感動すること」「じっくりと読み、自
分を見つめること」生まれます。

自分の宝本を紹介したり、他の方から教えてもら
ったりして、読書の輪を広げてみませんか。

4月23日「本の日、何の日？」

「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成十
三年）」の第十条で、四月二十三日は「子ども読書の
日」と定められています。子ども読書の日は、国民
の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を
深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う
意欲を高めるために設けられています。

たからぼん 宝本みつけた！

作画：西山友美

